

令和2年度 事業報告書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

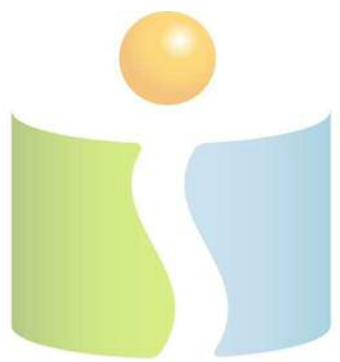


たきの森のようちえん（滝野自然学園）



公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会



SYAA

公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会

目次

I.	令和2年度 総括	1
II.	経営理念	2
III.	事業報告	
1.	事業実施状況	
2.	施設管理運営	
3.	事業実施報告概要（事業区分別）	3
4.	部門別（各施設）重点目標及び数値目標の達成状況	5
5.	各課（各施設）事業実施報告	
(1)	こども事業課・こども育成課（指定管理事業：児童会館 108 館）	14
	（受託事業：ミニ児童会館 92 館、放課後子ども館 1 館）	
(2)	こども劇場課（指定管理事業：やまびこ座・こぐま座）	16
(3)	若者支援事業課（指定管理事業：若者支援施設 5 館）	18
(4)	企画事業課（地域活動等事業：野外活動系事業）	20
	（自主事業：滝野自然学園）	
(5)	野外活動課（指定管理事業：北方自然教育園）	21
(6)	野外活動課（指定管理事業：定山渓自然の村）	22
(7)	野外活動課（指定管理事業：青少年山の家）	23
(8)	市民参画課（指定管理事業：札幌エルプラザ公共 4 施設）	25
(9)	企画事業課（地域活動等事業：自主事業・受託事業）	27
(10)	その他地域活動等事業（こども育成事業、財団連携事業）	28
6.	重要な契約に関する事項	29
7.	基金事業 協力者・助成対象一覧	
IV.	事務報告	31
1.	設立年月日	
2.	定款に定める目的	
3.	定款に定める事業内容	
4.	事務所の状況	
5.	役員等に関する事項	
(1)	理事 (2) 監事 (3) 評議員	
6.	職員に関する事項（事務局組織図）	33
(1)	主要な職員 (2) 職員数	
7.	会計に関する事項	34

I. 令和2年度 総括

令和2年度は、全国に緊急事態宣言が発出されるなど新型コロナウィルス感染症の影響を多大に受ける事業年度となった。当財団の各種事業への影響も大きく、指定管理施設の閉館対応や参加者を募る事業の中止・縮小を余儀なくされるなど、様々な制約を受ける状況となり関連する事業収益が大幅に減少する結果となった。また、年度当初の事業計画は、当該規模の影響を想定していなかったことから、期中において事業計画や目標数値を下方修正し、より現実的かつ安全性の高い事業実施や施設運営にシフトさせる対応が必要となった。

不自由な事業環境下において、既存事業では、その制約の範囲で今できること、必要なことは何かを考え、各事業対象者との新たな手法による接点作りを模索したが、「人とのつながり」を大切にする当財団の事業にとっては、試行錯誤が求められる環境が続いた。

そのような中で、新たな気付きも多く得られた。

エッセンシャルワーカーと定義される職員が多数従事する児童会館事業、居場所や拠り所として見直された児童会館事業・若者支援事業・男女共同参画事業、豊かな生活を送るために重要な役割を担うとのお声をいただいたこども劇場事業・野外施設事業・市民活動振興事業及び体験活動事業など、私たち財団の取組みが、社会課題の解決に大きな役割を果たしていることを再認識する機会となった。併せて、今年度から新たに開始した「こども若者応援基金」事業に多くの支援をいただけたこと、令和3年度から新たに「千歳市児童館・学童クラブ運営業務」を受託したことは、当財団のこれまでの実績から得られた新たな成果でもあると考えている。

財団設立から40周年を迎えた節目の年度に我々自身に様々な変化を求められたこと、また、我々の事業が皆様から高く評価され、欠かすことのできない存在として各所に認識いただけたことは、とても価値のある事業年度であった。

当財団はこれまでも、その時々の社会環境に適応しながら成長し、2,000名を超える職員が在籍する法人へ発展を遂げてきたが、コロナ禍の中での様々な困難を職員が一丸となって乗り越え、より強靭かつ将来に亘り持続可能な公益財団法人に進化させていく決意である。



II. 経営理念

「人とのつながりによる魅力あふれる未来社会の創造」

III. 事業報告

1. 事業実施状況

令和2年度 事業基本方針	
1	社会課題解決に対応した事業内容の積極展開
2	他部門・他団体との業務連携等の推進
3	未来ビジョンに基づく事業の展開
4	既存業務のシステム化の推進
5	部門別事業収支の適正化

2. 施設管理運営

(1)自主事業 1施設

- ・滝野自然学園

(2)指定管理事業 119施設

- | | |
|--------------|-------|
| ・若者支援施設 | 5施設 |
| ・児童会館 | 108施設 |
| ・青少年山の家 | 1施設 |
| ・定山渓自然の村 | 1施設 |
| ・北方自然教育園 | 1施設 |
| ・札幌エルプラザ公共 | 4施設 |
| ・こどもの劇場やまびこ座 | 1施設 |
| ・こども人形劇場こぐま座 | 1施設 |

(3)受託事業 93施設

- ・ミニ児童会館 (92施設)
- ・放課後子ども館 (1施設)



公益財團法人さっぽろ青少年女性活動協会

3. 事業実施報告概要（事業区分別）

【定款第4条】 (1)青少年の健全育成と社会参加に関する事業 (2)社会教育の推進に関する事業

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

子ども育成事業

- (1)青少年活動支援事業
 - ・放課後児童クラブ事業
 - ・学習活動事業
 - ・各種講座、講習会
 - ・劇団育成支援事業
 - ・インターンシップ、各種実習の受け入れ
- (2)体験機会創出事業
 - ・社会奉仕活動事業
 - ・各団体との共同開催事業
 - ・子どもの体験活動機会を創出する事業
- (3)施設管理運営事業
 - ・児童会館の管理業務、貸室等
 - ・こども劇場の管理業務、貸室等

若者自立支援事業

- (1)体験機会創出事業
 - ・自立支援プログラム、就労支援トレーニングプログラム
 - ・交流促進事業
 - ・ボランティア参加事業 等
- (2)受託事業
 - ・若者サポートステーション事業（厚生労働省受託事業）等
- (3)調査研究事業
 - ・社会的自立に関する調査・研究事業
- (4)施設管理運営事業
 - ・若者支援総合センター、若者活動センターの管理業務、貸室等

自然体験活動事業

- (1)滝野自然学園事業
 - ・体験機会創出事業
 - ・職員派遣事業
 - ・情報発信事業
 - ・団体支援事業
 - ・施設管理運営事業
- (2)北方自然教育園事業
 - ・体験機会創出事業
 - ・施設管理運営事業
- (3)定山渓自然の村事業
 - ・体験機会創出事業
- (4)青少年山の家事業
 - ・体験機会創出事業
 - ・団体支援事業

【定款第4条】 (3)市民活動の振興に関する事業

公2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業

市民活動振興事業

- | | | |
|-----------|-----------------|-----------|
| (1)活動支援事業 | ・男女共同参画啓発事業 | ・市民活動関連事業 |
| | ・N P O活動支援事業 | ・相談・支援事業 |
| (2)職員派遣事業 | ・大学、専門学校他への職員派遣 | |
| (3)情報発信事業 | ・各種情報誌の発行事業 | |

【定款第4条】 (4)その他法人の目的を達成するために必要な事業

収1 イベント・物品貸与等事業

- ・民間企業等から受託したイベント
企画運営等事業
- ・物品貸与等事業

他1 札幌エルプラザ等施設管理運営、 公益目的外での施設貸与事業

- ・札幌エルプラザ公共4施設、
定山渓自然の村、青少年山の家の管理運営
- ・こども劇場、若者支援施設における
公益目的外での施設貸与事業

4. 部門別（各施設）重点目標及び数値目標の達成状況

こども事業課・こども育成課

札幌市児童会館

札幌市ミニ児童会館



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

重点目標	内容	達成状況
	<p>【地域活動等事業】</p> <p>①学習支援事業（札幌まなびのサポート事業「まなべえ」）において、生活困窮世帯の中学生を対象に、高校進学を促進する。併せて、若者支援事業課と連携し、中学校卒業後の支援に向けた取り組みについて推進する。</p> <p>②子どものくらし支援コーディネート事業において、困難を抱えている子どもや家庭を早期に発見し必要な支援につなげるコーディネーターを配置し、子どものくらしを支える相談支援体制の充実を図る。</p> <p>【施設運営等事業】こども事業課</p> <p>①各種企業・団体との連携体制を強化する。</p> <p>②事業収支の適正化を図る。</p> <p>【施設運営等事業】こども育成課</p> <p>①ビジョン・ミッションの再設定を行い組織力の向上を図る。</p> <p>②未来を担う子どもたちのために、職員同士が育ちあう環境を整え、人間性豊かな指導者の育成を目指す。</p> <p>③子ども運営委員会の役割や効果を再検討し、意見表明や自己実現をとおした成長の機会につなげる。</p> <p>④全道・全国との連携を強化し、児童館行政の動向把握と将来構想へ向けた取り組みを行う。</p> <p>⑤安心安全な施設運営の強化を図る。</p>	<p>①参加者した中学3年生は全員、高校に進学することができ、改めて本事業の重要性を示すことができた。また、事業在籍中及び中学校卒業後も悩みを相談できる居場所づくりのため、若者支援施設の職員が会場巡回などの連携を行い、関係構築に取り組んだ。</p> <p>②困難を抱えている子どもや世帯を早期に発見し、必要な支援につなげるため、コーディネーターを5名配置した。関係機関とは、情報共有を行い、見守り・支援について協議を重ねた。また、対象家庭に必要とする情報の提供や同行支援などを行った。</p> <p>①各種企業・団体との連携のもと、集合型事業に加え、時代背景に沿った「オンライン型事業」を展開し、連携体制の強化を達成した。</p> <p>②コロナ禍の児童会館運営にあたり、衛生用品の調達、児童クラブ開設時間の延長等に伴う各種契約改定、予算変更への対応等を適正に遂行した。</p> <p>①プロジェクトチームを立ち上げ、ワークショップを実施しビジョン・ミッションの再設定をおこなった。組織力の向上のため、設定したビジョン等を浸透させ、職員意識の変革を図った。</p> <p>②職員同士が主体的に関わり、感染症対策研修や情報交換会、Webサイトを活用した動画配信などの新たな取り組みを行い、育ちあう環境を構築した。</p> <p>③コロナ禍を機に子ども運営委員会の目的に立ち返り、遊びの参画やルール等の見直しなどを図ることで、子どもの自己実現をとおした成長の機会につなげた。</p> <p>④全道・全国との連携強化のために、北海道児童館連絡協議会に加盟することで北海道の児童館との連携の窓口ができ環境整備を行うことができた。</p> <p>⑤感染予防の観点から各施設において、利用者が安心安全に過ごすことができるように入念な施設設備点検や環境整備を実施した。</p>
共通目標	<p>①利用者総数（こども育成課）2,700,000人以上</p> <p>②事業プログラム参加者総数 　　こども事業課 400人以上 　　こども育成課 350,000人以上</p> <p>③利用者アンケートにおける満足度 　　こども事業課 4以上(5段階評価) 　　こども育成課 80%以上</p>	<p>①2,701,710人(100.1%)</p> <p>②こども事業課 826人(206.5%) 　　こども育成課 433,143人(123.8%)</p> <p>③こども事業課 4.6(5段階評価) 　　こども育成課 85.1%</p>
数値目標	<p>【こども事業課】</p> <p>①各種企業・団体等、新規関連ネットワーク団体との連携 5団体以上</p> <p>【こども育成課】</p> <p>①地域連携事業の実施 　　1回以上/年(1館) 　　200回/年(全館)</p>	<p>①13団体(目標対比:260.0%)</p> <p>①全館達成(100%) 　　※達成率については目標達成館/200館により算出 　　212回/年(106.0%)</p>
部門目標		



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収1 イベント・物品貸与等事業

他1 目的外での施設貸与等事業

重点目標	内容	達成状況
	【地域活動等事業】 劇場という空間が特別なものではなく、地域に開かれた親しみある場として、子どもから大人まで多くの市民が集い合い、夢や笑顔を交わすことで生まれる創造的な取り組みを応援し、人や地域の活性化につなげる。	屋外公演や、児童会館と連携した事業、リモートを活用した各種講習会、他団体との連携による体験型ワークショップ等、コロナ禍だからこそ求められる新たな事業展開を模索することができた。
	<p>【施設運営等事業】</p> <p>①人形劇、児童劇等の裾野を広げていくため、人材育成を柱に、時代のニーズに合わせ継続的かつ発展的な事業展開を行う。</p> <p>②札幌の子ども文化の創造・発信拠点として中心的役割を担う。</p> <p>③歴史的価値の高いやまびこ座、こぐま座、中島児童会館の3施設による連携を図り、子どものための専門施設として、より効果的な運営を実現する。</p> <p>④指定管理費と併せ、公的助成や民間資金の活用による発展的な事業展開を図る。</p> <p>⑤全国的にも数少ない子どものための公立文化施設として、文化力による社会的役割を明確にし、未来ある子どもたちの夢と可能性を広げていく。</p>	<p>①コロナ禍により人形劇団などへの育成が困難な状況にある中で、職員研修を強化することにより、市民が文化活動を行う意義を体感し、新たな時代のニーズ発見へつながった。</p> <p>②ウィズコロナ時代に合わせ、動画配信サイトを活用し、札幌の子ども文化を全国へ向け発信することができた。</p> <p>③こども若者事業部内で連携することにより、互いの理解を深めることで、より広がりのある事業展開が行えるよう、協力体制を構築することができた。</p> <p>④当初予定していた文化庁助成金の不採択となったが、他の助成金や事業収益の確保により、収支改善を図ることができた。</p> <p>⑤コロナ禍により、大規模な公演などが中止となる中、劇団やアーティストと連携し、児童会館への出張公演を行うことをとおして、子どもたちへの文化支援をするとともに、活動が停滞している劇団等の支援にもつながることができた。</p>
共通目標	<p>①利用者総数 30,000人以上 ②事業プログラム参加者総数 17,000人以上 ③参加者アンケートにおける満足度 85%以上</p>	<p>①35,350人 (117.8%) ②13,739人 (80.8%) ③99.75%</p>
部門目標	<p>①やまびこ座 年間上演日数80日、公演数140回以上 こぐま座 年間上演日数65日、公演数115回以上</p> <p>②中島児童会館・人形劇場こぐま座資料室 『MA・SO・BO』年間利用人数4,000人以上</p>	<p>(上演日数/公演数)</p> <p>①やまびこ座 106日 (132.5%) / 150回 (107.1%) こぐま座 75日 (115.3%) / 104回 (90.4%)</p> <p>②4,165人 (104.1%)</p>



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収1 イベント・物品貸与等事業

他1 目的外での施設貸与等事業

重点目標	内容	達成状況
	<p>【地域活動等事業】 Youth+の取り組みを推進するため、活動協会内他部門やNPO、市民の方と協働を行う。子ども・若者に関わるユースワーカーの理念を共有しながら実践を進める。</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>①Youth+の最大の強みである、「ふらっと来ることができながらも、見守りが行き届いた居場所」という特色を、施設ハードを活かした居場所事業、Youth+にアクセスしにくい人に向けた地域内居場所作りという、ふたつの視点から拡充していく。</p> <p>②全ての子ども・若者を権利主体としてとらえ、子どもの権利条例の理解促進と、そこから発展した「若者の権利」を考えるために、オープンミーティングやフォーラムなど社会発信型の事業に着手する。</p> <p>③システムの機能拡充およびクラウドの活用による事務執行により迅速な意思決定および新たな課題やニーズへの的確に対応できる環境整備を行う。</p>	<p>興正学園や認定NPO法人Kakotamと協働するかたちで、カフェスペースでの居場所の提供やキッチンカーカフェ部事業の会場を新規開拓し、施設だけでは網羅できない地区の若者へアプローチを行った。</p> <p>①施設としての居場所のほか、施設内だけではなく、キッチンカーなどの事業を実施し、若者が安心して過ごせる居場所づくりの拡充を行った。</p> <p>②「子ども若者の権利」関連では特に社会参加促進事業に注力した。また、オンラインでの事業を展開したところ、距離的時間的な制約が緩和されたことにより、若者の参加が促進され、今後の事業の可能性を広げることができた。</p> <p>③クラウドサービスを導入し、積極的に活用することで、共同での資料作成やオンライン会議によるスピーディーな意思決定を可能にした。 また、継続的にクラウドサービスを活用することで、オンライン機能に対する知識が各職員に蓄積され、オンラインを活用した事業展開に発展することができた。</p>
共通目標	<p>①利用者総数 285,000人以上 ②事業プログラム参加者総数 53,500人以上 ③参加者アンケートにおける満足度 96%以上</p>	<p>①163,533人(57.4%) ②35,658人(66.1%) ③97%</p>
部門目標	<p>①利用証の発行を受けた若者等登録者 15,800人以上 ②新規に相談を受けた自立支援登録者数 400人以上</p>	<p>①10,103人(64.0%) ②297人(74.3%)</p>



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

重点目標	内容	達成状況
	【地域活動等事業】	
	<p>①財団所有施設である強みを活かし、野外活動や、周辺フィールドを活用した自然体験活動を通じて、グループ活動を中心とした魅力あるプログラムを提供し、青少年の健全育成を行う。</p> <p>②財団内他部門や、関連団体との横断的な連携により、自主事業の拡充や幅広い分野からの指導事業受託を図る。</p> <p>③関連NPO団体との連携体制を強化し、効率的な施設運営を目指す。</p> <p>④財団内や児童向け施設の利用促進を図るべく、自然体験プログラムの提案やPR活動を推し進め、利用につなげる。</p>	<p>①コロナ禍の事業実施という事態に直面したことが、改めて滝野自然学園にある資源を見直す機会となった。プログラム開発を進めて滝野の魅力を見える化し、まずは財団内への周知を行ったが、社会的な行動制限による影響が大きく、今年度は実際の展開までは至らなかった。</p> <p>②年度当初、感染症拡大に伴い、多くの事業の中止連絡が入る中、できる形で柔軟な提案を行い、新しいつながり方で信頼を得る、または維持する結果につながった。</p> <p>③双方の人員の大半が入れ替わる状況となり、改めて滝野自然学園の運営、維持管理、事業実施等について協議を重ねてきた。今年度実質的な成果のある連携体制強化には至っておらず、継続して効率的な施設運営を目指す。</p> <p>④社会的な状況を鑑み、幼稚園、保育園へのパンフレット配布にとどまった。</p>
共通目標 数値目標	<p>①利用者総数 1,500人以上（実人数） ②事業プログラム参加者総数 1,000人以上 ③参加者アンケートにおける満足度 93%以上</p> <p>①財団内利用件数 5件以上</p>	<p>①実人数 1,918人（127.9%）延べ人数 2,198人 ②1,244人（内ボランティア93人）（124.4%） ③95%</p> <p>①3件（60.0%）</p>
部門目標		



重点目標	内容	達成状況
	【地域活動等事業】	
	<p>①市内の自然環境や動植物についてのセミナーを実施し、自然環境の保全や共生について考える機会を提供する。</p> <p>②地域住民との関係性を深めるための事業を実施する。</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>①小中学校をはじめとする体験学習への安定的な機会提供および学習機会を強化する。</p> <p>②生物教材配布の生物の飼育方法の見直しと幼保小中学校への安定的な供給を行う。</p> <p>③SNS を活用した小中学校に対する事前および事後学習を支援する。</p> <p>④学びの農園（Learning Garden）実施に向けての調査研究を行う。</p> <p>⑤部門同志が持つ強みを活かし合うことによる事業の連携強化を行う。</p> <p>⑥特定非営利活動法人ネイチャープログラムデザインとの連携強化する。</p>	<p>①自然と人との暮らしをつなぐ「里山」をテーマに、里山で暮らすハチの仲間について講師を招き、オンラインセミナーを実施し、自然環境保全について、考える機会を提供することができた。</p> <p>②白井川地区の地域活動として、共同で使用している水源地の泥除去や除草などの整備を行い、地域住民との関係性をより深めることができた。</p> <p>①新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、水田の植付を中止とする学校が多くたが、希望校には収穫体験が実施できるように北方自然教育園スタッフにより植付を行い、体験学習の機会を提供了。また、ホームページでは補助教材として、稲の植付、収穫、精米までの動画を公開することで、広く学習機会の提供を行うことができた。</p> <p>②生物教材配付では、コオロギの繁殖業務を取りやめ、業者より購入したものを配付する方法に変更する事で、業務の効率化を図った。</p> <p>③HP を改修し、学校教材のページを公開するとともに、Facebook を活用した情報発信を行った。</p> <p>④学びの農園については、コンパニオンプランツを植えることで植物の特性をいかし害虫を防ぐ取組を実施するとともに、解説パネルを設置し、学びの機会を提供了。</p> <p>⑤児童会館との連携事業として、自然体験活動及び農園の活用を予定していたが、コロナ禍で中止となつた。事業中止により余剰品となったジャガイモやヘチマの苗を、児童会館の希望館に配布し、有効活用を図つた。</p> <p>⑥特定非営利活動法人ネイチャープログラムデザインとの連携では、農園作業だけでなく受付補助ができる人員を増員し、協働体制を深めた。</p>
共通目標	<p>①利用者総数 4,000 人以上</p> <p>②事業プログラム参加者総数 650 人以上</p> <p>③参加者アンケートにおける満足度 大変満足 86% 以上</p>	<p>①4,440 人 (111.0%)</p> <p>②434 人 (66.8%)</p> <p>③86%</p>
部門目標	<p>①小中学校を対象とした農業体験事業の提供 27 校(800 人)以上 (延べ参加校)</p> <p>②学習館入館の料金収入増 86,200 円以上</p>	<p>①26 校(881 人) (96.3%)</p> <p>※達成率については目標校数/27 校より算出</p> <p>②108,300 円 (125.6%)</p>



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他1 目的外での施設貸与等事業

重点目標	内容	達成状況
	<p>【地域活動等事業】</p> <p>①施設利用の領域拡大を目指し、平日利用者向けの提供プログラムを開発する。</p> <p>②札幌市内の児童に対する自然体験活動プログラムの提供を行う。</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>①自然体験活動に対して特別な支援を必要とする児童、団体、家族、グループを対象としたスペシャルニーズキャンプの実践とプログラム開発を行う。</p> <p>②冬季利用促進を目的とした事業を実施する。</p> <p>③他団体や企業との連携を強化し、利用促進に繋がる教育的効果の高い事業を多様な手法を用いて実施する。</p> <p>④部門同士が持つ強みを活かし合うことによる事業の連携強化を図る。</p>	<p>①札幌市内小学校宿泊学習6校の受け入れをおこない、施設における平日利用促進の可能性について検討し、実践を図った。定山渓遊々の森をフィールドとし、豊かな自然環境や森の循環について学ぶプログラムを開発し、教育的効果の高いプログラム提供を行った。</p> <p>②開発したプログラムを活かし札幌市内児童会館への自然体験事業「ようこそ児童会館」を実施し、4館73名のこどもたちに対し、プログラムの提供を行うことができた。</p> <p>①スペシャルニーズキャンプモニター日帰り事業として、札幌市内中学校の特別支援学級に対し、「気軽に自然体験活動ができる」ことをテーマにプログラムの提案と実践をおこなった。事業終了後、教諭から意見とアンケートを回収し分析を行い、満足度が高く宿泊型事業の利用希望があることがわかった。次年度以降も継続して取り組みを行う。</p> <p>②集合型大規模事業を中止し、初心者向けの冬キャンプ体験事業を日帰り・宿泊の形態で2事業実施した。参加申し込みを多数いただき、冬期利用の需要の高まりを感じた。</p> <p>③札幌市環境局との共催事業として、「ヒグマ痕跡探しバスツアー」を実施した。講師の持つノウハウと施設の持つフィールドが合致し、野生動物に対する知識が深まると共に、参加者の満足度も高い事業となった。</p> <p>④市民参画課環境プラザと協力し、お互いの児童向け事業において、人材交流を含めた事業展開を行った。それぞれのスタッフが持つ強みを生かし、事業の幅を広げることができた。</p>
共通目標	<p>①利用者総数 11,500人以上 ②事業プログラム参加者総数 1,800人以上 ③参加者アンケートにおける満足度 98%以上</p>	<p>①14,523人 (126.3%) ②2,136人 (118.7%) ③98.6%</p>
部門目標	<p>①実践型森林環境教育の推進(参加人数) 600人以上 ②冬季野外活動促進(下期利用率) 27%以上 ③セルフモニタリング調査(実施件数) 350件以上</p>	<p>①438人 (73.0%) ②32.9% ③400件 (114.3%)</p>



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他1 目的外での施設貸与等事業

重点目標	内容	達成状況
	【地域活動等事業】 パッケージドプログラムの開発を行い、団体への一部提供を行う。	災害対策をキーワードに、参加者自身の力で薪を調達するプログラムを開発し、9月に出張事業として試験的に実施した。また、新年度へ向けコロナ下でも展開できるよう新たな炊事プログラムを開発の開発を行った。そのほか、施設ボランティアの力を束ねて3月に滝野公園に特化した図鑑を3月に発行し、活用するプログラム展開を含め団体に提供するため準備を進めた。
共通目標	<p>①利用者総数 16,900人以上</p> <p>②事業プログラム参加者総数 2,600人以上</p> <p>③参加者アンケートにおける満足度 97%以上</p>	<p>①17,732人（104.9%）</p> <p>②3,583人（137.8%）</p> <p>③89.8%</p>
部門目標	①利用のしやすさに対する満足度 88%以上	①88.5%

重点目標	内容	達成状況
	<p>【地域活動等事業】 次の時代を見据え受託事業等に取り組み、ノウハウの蓄積や国や関係機関との連携を意識した事業展開を図る。</p> <p>【施設運営等事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●男女共同参画センター事業 <ul style="list-style-type: none"> ①ジェンダー平等達成に向けた取り組みを行う ②子ども・若者のエンパワメント事業を実施する。 ③ワーク・ライフ支援を行う。 ●市民活動サポートセンター事業 <ul style="list-style-type: none"> ①次世代活動者の堀り起こしと支援を行う。 (人材養成、コーディネート) ②市民活動団体との協働拡充を図る。 ●環境プラザ事業 <ul style="list-style-type: none"> ①さまざまな団体との関わりを継続し多面的に連携する。 ②情報収集・発信を充実させる。 ●情報センター事業 <ul style="list-style-type: none"> ①情報コンシェルジュ業務を深化させる。 (エルプラザの情報発信拠点) 	<p>女性向けコワーキングスペース事業における、新規利用者数の増加、北海道女性起業家支援における新たなロールモデルの獲得等、次の時代につながる事業運営ができた。また、新型コロナウィルス感染症拡大に伴う休館中もオンラインを活用し、コワーキングスペース利用者からの相談に対応することで、コロナ禍による不安を軽減し、利用者との繋がりを維持することができた。</p> <p>●男女共同参画センター事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ①性やカラダについて自由に意見交換する機会の提供をとおして、女性の多様な生き方の発信に寄与することができた。 ②ジェンダーについての意見交流会をとおして、若者の持てる力、考えを引き出すことができた。 ③外部講師を招き、ライフ・キャリアビジョンについて考える機会を提供することができた。 <p>●市民活動サポートセンター事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ①次世代に向けた「NPOワークショップ」において市民活動サポートセンターの機能や NPO の活動に目を向ける機会を提供した。 ②「みんなのしみサポ」制作のための取材活動や「サロン事業」CM撮影会等をとおして団体同士の新たな交流機会を創出した。 <p>●環境プラザ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ①対面事業での他団体協力に加え、講師や参加者とオンラインを活用して関わる事業を展開することができ、社会状況に合わせた多面的な連携を行うことができた。 ②HPやSNSの活用、動画コンテンツの作成等、事業や施設に直接関わることに留まらない環境情報の発信を行うことができた。 <p>●情報センター事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ①情報コンシェルジュ事業「情報発信の学校」を展開し、のべ 83人の参加者を得ることができた。
共通目標	<ul style="list-style-type: none"> ①利用者総数 372,000 人以上 ②事業プログラム参加者総数 46,000 人以上 ③参加者アンケートにおける満足度 86%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ①272,564 人 (73.3%) ②22,665 人 (49.3%) ③施設満足度 91% 接遇満足度 94%
数値目標 部門目標	<ul style="list-style-type: none"> ①男女共同参画センター 男女共同参画の啓発 26回 ②市民活動サポートセンター 市民活動啓発事業の実施 8件 ③環境プラザ事業 環境活動の機会提供 37回 ④情報センター事業 SDGsの意識啓発につながる取り組み 8回 	<ul style="list-style-type: none"> ①42回 (161.5%) ②9回 (112.5%) ③46回 (124.3%) ④12回 (150.0%)



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収1 イベント・物品貸与等事業

重点目標	内容	達成状況
	【地域活動等事業】	
	<p>①これまで蓄積した外部組織等との関わりによる成果をリスト化し、他課への周知と活用を図る。</p> <p>②社会の状況を的確にとらえたうえで自主事業を立ち上げ、社会課題解決に向けた取り組みを行う。</p> <p>③財団全体の認知度向上を視野にいれ「あそぼ」等の広報活動のレベルアップに向けた取り組みを進めていく。</p>	<p>①これまで関わってきた学生団体のリスト化に係る準備を進めた。</p> <p>②新型コロナウィルス感染症拡大防止という社会情勢を捉え、夏場の家族向けプログラムを企画し、野外事業として実施した。</p> <p>③広報広報紙「あそぼ」の Instagram を展開した。</p>
共通目標	<p>①利用者総数 ②事業プログラム参加者総数 ③参加者アンケートにおける満足度</p>	※コロナ禍によりイベント事業の実施がないため、今年度は目標を設定しない。
部門目標	<p>①イベント収益総額 4,350万円以上 ②事業全体の収益率 35%以上 ③他課連携事業数 1回以上</p>	<p>①3,100万円 (71.3%) ②56% ③1回 (100.0%)</p>



5. 各課（各施設）事業実施報告

(1) こども事業課・こども育成課【指定管理事業：児童会館 108 館】

【受託事業：ミニ児童会館 92 館／放課後子ども館 1 館】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業	<p>「西宮の沢児童会館 スペシャル人形劇」</p> <p>こども若者事業部連携・やまびこ座・こぐま座企画「応援☆人形劇おでかけ公演～がんばろうこどもたち！児童会館編～」として、児童会館に劇団を招き、人形劇の鑑賞会を行った。コロナ禍で相次いで事業が中止となる中、当財団のスケールメリットを生かすことができた。</p>	12/16 西宮の沢児童会館 43 人
	<p>「北区 新琴似西児童会館ハンドベルクラブ」</p> <p>音楽を楽しみ協調性を養い、また、活動発表の機会を設けることで、目標を持って活動することを目指した。感染症拡大防止のため、活動発表会は体育室での実施に加え、オンラインでの配信を行った。オンラインでの配信は、保護者からの評価も高く、子どもたちのモチベーション維持にもつながった。</p>	10月～12月(全6回) 新琴似西児童会館 84人(延べ)
	<p>「白石IIブロック YouTube おうちで児童会館」</p> <p>新型コロナウィルス感染症拡大に伴い、自宅で過ごす時間が長くなったり子どもたちに向け、インターネット動画共有サービスを活用し、動画の配信を行った。家でできる遊びや工作を紹介し、自宅での活動を豊かにできるよう支援した。また、児童会館での子どもたちの活動の様子を配信するだけに留まらず、企業と連携することで、児童会館の活動を広くPRする機会につながった。</p> <p>児童らも動画に出演し、コロナ禍で会うことが制限されている親戚や友人に元気な姿を届けられたという副次的効果も得られた。</p>	11月～3月(全43回) 白石IIブロック児童会館 こども人形劇場こぐま座 参加人数:520人(延べ) 登録者数:232人 全動画視聴回数:21466回
	<p>「豊平区にじりんプロジェクト 豊平Zoom運動会」</p> <p>コロナ禍においても、豊平区内の児童会館の子どもたちが楽しいと感じる体験や、他館との交流の場、会館内での子どもたちの輪を広げることを目的に、オンラインを活用し運動会を開催した。</p> <p>運動会の種目数の調整や、参加人数を考慮した得点システムを考案など、オンライン上でも実施できる工夫を行った。事前の準備や当日の事業をとおして、豊平区の児童会館全体の活性化につながった。</p>	1/15 豊平区児童会館 22館 551人
人材育成事業	<p>「東エリア 安全対策研修」</p> <p>オンラインビデオツールを活用し、研修を実施した。本研修では新型コロナウィルス感染症拡大に伴い、ウィルス全般に有効な消毒液、次亜塩素酸の扱い方、消毒の範囲等、感染症の正しい予防法や児童への感染症対策の指導法について理解することができた。</p>	11/24 東エリア 98館 845人

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会 フォロー事業	「スキースキースキー」 経済的困窮世帯の小学生を対象に、子どもの成長に必要な様々な体験機会を提供する事業区分の一つとして、インストラクター指導の下、スキ一体験事業を実施した。技術習得のなか、達成感を味わい自信につなげる機会となった。	2/14 さっぽろばんけいスキー場 14人
興味・関心 創出事業	「デジタルコンテンツ体験」 子どもを取り巻く社会環境や価値観が多様化するなか、将来に向けた選択領域を広げることを目的に、子どもがさまざまな「ヒト・コト・モノ」に触れ、自らの興味・関心を知る機会を提供する事業区分のひとつとして、デジタル分野の新技術を体験しながら学ぶ事業を北海道情報大学との共催にて実施した。	3/13 JRタワー 32人

札幌市児童会館・札幌市ミニ児童会館利用状況

利用状況

(人)

区分	開館日数及び回数 (延べ数)	人 数	利 用 人 数 の 内 数					
			幼児	低学年	高学年	中学生	高校生	一般
児童会館	31,551	1,586,708	88,263	1,120,909	215,433	47,847	27,474	86,782
ミニ児童会館	26,921	1,021,147	967	873,091	143,209	48	2	3,830
占用利用	7,575	93,855	3,654	16,865	19,062	16,967	1,838	35,469
総 利 用		2,701,710	92,884	2,010,865	377,704	64,862	29,314	126,081
前 年 度 比		3,842,230 (70.3%)	174,128 (53.3%)	2,577,069 (78.0%)	641,096 (58.9%)	86,557 (74.9%)	43,547 (67.3%)	319,696 (39.4%)

児童クラブ在籍数

(人)

区分	令和2年度4月末日現在の在籍数							延べ入会	延べ退会	令和3年3月末日現在の在籍数						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
在籍人数	6,234	5,614	4,511	2,943	1,363	576	21,241	24,574	3,278	6,778	5,816	4,551	2,934	1,350	584	22,013

4月末日現在の在籍数の比較(前年度 19,480人・前年比 109.0%)

障がい児受け入れ数

(人)

内訳

区分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	クラブ	直来
普通学級	189	127	123	89	48	41	617	600	17
特別支援学級	83	83	68	67	57	29	387	366	21
特別支援学校	2	0	0	0	1	0	3	2	1
計	274	210	191	156	106	70	1,007	968	39

(前年度 1,071人・前年比 94.0%)

(2) こども劇場課 【指定管理事業：こぐま座・やまびこ座】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
地域連携事業	<p>「福島県への継続文化支援活動」</p> <p>2011 年の東日本大震災で被害のあった福島県において継続的な文化的支援活動を実施している。今年度は新型コロナウィルス感染症拡大の影響を受け事業規模を縮小し、Zoomによるリモート開催などを行ってきたが、3 月には郡山市の日和田公民館からの依頼を受け職員と講師を派遣し人形浄瑠璃ワークショップを実施した。</p> <p>《こども若者事業部連携事業》</p> <p>札幌市こどもの劇場やまびこ座・札幌市こども人形劇場こぐま座企画 「応援☆人形劇おでかけ公演&舞台体験ワークショップ ～がんばろう子どもたち！児童会館編～」</p> <p>札幌の人形劇団やアーティストが児童会館へ出向き、公演およびワークショップを実施することで、コロナ禍の子どもたちのストレスを少しでも和らげるべく企画した。また、活動が停滞した各劇団やアーティスト、舞台スタッフの支援も兼ね、各アーティストと協働しながら、札幌の子どもたちへの文化支援とした。</p>	9月～3月 やまびこ座 日和田公民館(福島県) 222人
	<p>冬の野外劇場 Sapporo Snow Stage in Yamabiko-za</p> <p>「人形浄瑠璃×雪のステージ」</p> <p>全国で展開される「JAPAN LIVE YELL project」の一環として、やまびこ座に特設雪像ステージを製作し上演を行った。コロナ禍の影響により、大きな不安と閉塞感の中での生活が余儀なくされ、舞台芸術や体験活動の機会が減少している中で、市民に対し豊かな観劇の機会を提供することができた。メインステージは YouTube による生ライブ配信を同時に行つた。</p>	11月～12月 やまびこ座 こぐま座 市内児童会館(23館) 998人
公演事業	<p>「第 49 回 札幌人形劇祭」</p> <p>道内及び札幌で活動する人形劇団による、コンクール形式の連続公演。「大人部門」と「こども部門」の 2 部門で審査公演を実施した。新型コロナウィルスの影響により参加団体が大幅に減少した。11 月に入り感染症拡大が生じたため急遽市外の劇団への特別措置としてビデオ参加を可能とした。ビデオ参加の 1 劇団を含め計 10 団体が参加した。当協会と札幌人形劇協議会が協働し「第 49 回札幌人形劇祭実行委員会」主催とした。</p> <p>「こぐま座春の特別公演 おたのしみ劇場ガウチョス」</p> <p>幼稚園や小学校の長期休みを利用して、普段なかなか観ることのできない道外の専門劇団の公演を観劇することで、多くの市民に良質の人形劇を楽しんでいただくと同時に、当協会とやまびこ座・こぐま座の PR につながった。</p>	2/4～2/14 (公演日：13 日・14 日) やまびこ座 971人
		11/21～11/23 やまびこ座 326人
		3/26～27 こぐま座 129人

札幌市こども劇場利用状況

■こどもの劇場「やまびこ座」

【利用状況】

区分	件数(件)	人数(人)
ホール	439	10,763
会議室	249	1,208
研修室	326	3,822
美術工作室	374	3,778
ロビー・展示室・図書コーナー	-	1,265
研修・見学	-	378
その他(アウトリーチ事業、屋外事業等)	-	3,791
総利用数	1,388	25,005

利用件数 前年度： 1697件 前年比： 81.8%

利用人数 前年度： 44466人 前年比： 56.2%

【ホール利用内訳】

観劇者数	無料(人)	812
	招待(人)	662
	有料(人)	4,375
	合計(人) ... (a)	5,849
出演者の数(含むリハーサル)(人)	... (b)	4,914
出演者観劇者総数(人)	... (a+b)	10,763
上演回数(回)		138
上演日数(日)		100
仕込み・リハーサル・研修日数(日)		95
上演1回あたりの観客数(人)		42

○あおぞらキッズシアター	上演回数：7回 上演日数：5日
○ほしづらキッズシアター	上演回数：1回 上演日数：1日
○冬の野外劇場	上演回数：4回 上演日数：2日
上演回数=150回 (138回+12回) 上演日数=106日 (100日+8日※内2日重複)	

■こども人形劇場「こぐま座」

【利用状況（ホール利用内訳）】

観劇者数	無料(人)	1,049
	招待(人)	134
	有料(人)	1,795
	合計(人) ... (a)	2,978
出演者の数(含むリハーサル)(人)	... (b)	993
出演者観劇者総数(人)	... (a+b)	3,971
研修・見学	... (c)	6,374
利用者総数	... (a+b+c)	10,345
上演回数(回)		104
上演日数(日)		75
仕込み・リハーサル・研修日数(日)		104
上演1回あたりの観客数(人)		28.6

利用人数 前年度： 31517人 前年比： 32.8%

(3) 若者支援事業課【指定管理事業：若者支援施設 5 館】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
自立支援事業	<p>「自立支援相談窓口 オンラインでの自立支援相談」</p> <p>コロナ禍において外出や対面相談に不安を抱える若者ならびにその家族に対し、オンラインによる面談を実施した。想定よりも、若者側の抵抗感が少なく、希望者も増加傾向にある。</p> <p>当センターにおけるオンライン面談の取り組みは、全国の地域若者サポートステーションに対し好事例として紹介された。</p>	通年 オンラインでの実施 相談件数 47 件
社会参加促進事業	<p>「キッチンカー 10代みんなのカフェ部」</p> <p>Youth+への来所が困難な若者と出会う「新たな居場所」場をつくり「食」を通じた交流機会を開催した。若者の課題やニーズを早期に発見し、必要な支援(支援先)へつなげた。</p> <p>新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、スタッフが個食となるよう分けて提供した。</p>	7/1～11/30 中島公園内 もみじ台管理センター 真駒内(まこまる) 市内まなべえ会場 697 人(延べ)
	<p>子ども・若者権利フォーラム</p> <p>「ジブンらしく生きることについて大げさじゃなくはなそう。」</p> <p>Zoom のウェビナー機能を活用し、子ども若者の権利とそれに関連した Youth+の活動紹介、著名人から若者へ向けた動画メッセージ、全体ディスカッションの 3 部構成で事業実施した。参加者はアンケート機能や Q&A 機能を用いて自身の意見を発信する場を設けた。自己実現や他者理解についてのコメントが多く寄せられた。</p>	3/14 オンラインでの実施 66 人



札幌市若者支援施設利用状況

単位：人

内訳	センター	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	合 計
自立支援事業	13,926	0	0	0	0	13,926
若者	9,895	0	0	0	0	9,895
一般	4,031	0	0	0	0	4,031
交流促進事業	4,884	2,840	1,723	2,360	1,663	13,470
若者	4,803	2,824	1,701	2,341	1,661	13,330
一般	81	16	22	19	2	140
社会参加促進事業	1,346	1,356	3,277	1,435	848	8,262
若者	1,217	1,182	924	1,284	845	5,452
一般	129	174	2,353	151	3	2,810
ロビー利用	6,428	2,168	2,856	3,707	4,739	19,898
若者	6,330	2,164	2,845	3,107	4,715	19,161
一般	98	4	11	600	24	737
貸室利用	17,187	26,278	5,228	28,519	30,765	107,977
若者	12,961	22,571	4,044	22,528	20,240	82,344
一般	4,226	3,707	1,184	5,991	10,525	25,633
合 計	43,771	32,642	13,084	36,021	38,015	163,533
若者	35,206	28,741	9,514	29,260	27,461	130,182
一般	8,565	3,901	3,570	6,761	10,554	33,351

【令和元年度】

- ※自立支援事業 …若者 12,269人（前年度比 80.7%） 一般 4,327人（前年度比 93.2%）
 ※交流促進事業 …若者 19,637人（前年度比 67.9%） 一般 229人（前年度比 61.1%）
 ※社会参加促進事業 …若者 10,437人（前年度比 52.2%） 一般 2,204人（前年度比 127.5%）
 ※ロビー利用 …若者 42,190人（前年度比 45.4%） 一般 4,161人（前年度比 17.7%）
 ※貸室利用 …若者 122,575人（前年度比 67.2%） 一般 47,094人（前年度比 54.4%）
 ※総利用者数 …若者 207,108人（前年度比 62.9%） 一般 58,015人（前年度比 57.5%）



(4) 企画事業課【地域活動等事業：野外活動系事業、自主事業：滝野自然学園】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業 【小学生対象事業】	<p>「文部科学省委託事業 たきの森のがっこう」</p> <p>自然体験活動をとおして、個人の学びと小学1年～6年生の異年齢集団が相互にもたらす教育的効果を狙う事業として実施した。</p> <p>今年度は、文部科学省の委託事業であることから参加費無料で実施しており、常に定員の2～4倍の申込みがあり、多くの新規参加者を獲得した。感染症予防の対策を講じたうえで、実施回を増やし、可能な限りニーズに対応した。</p> <p>新型コロナウィルス感染症拡大防止に伴う休校措置等の影響により、不登校ぎみになってしまった児童も参加しており、事業参加後、登校できるようになったとの声が寄せられた。</p>	8月～2月(全9回) 滝野自然学園 217人(延べ)
体験機会創出事業 【幼児対象事業】	<p>「たきの森のようちえん」</p> <p>幼児期に多くの自然体験を重ねることにより、情感豊かな心（情操）を育む事業として実施した。コロナ禍の一年においては、行動の制限が課されることと同時に、保育園・幼稚園等での年中行事の多くが中止となった状況の中、本事業が目的の他に親子ともに安心して心を開放できる場としての役割を担った。</p>	7月～3月(全17回) 滝野自然学園 463人 (延べ・ボランティア含む)
体験機会創出事業 【その他】	<p>「滝野自然学園利用促進事業冬季プログラム体験会」</p> <p>滝野自然学園で実施可能なプログラムを可視化して職員向けに体験会として提供した事業。告知期間の短さ等により参加は少人数であったが、各施設からの要望や希望等を直接聞くことができ、次年度に向けた滝野自然学園有効利用の足がかりを作ることができた。</p>	2/17、18 滝野自然学園 7人
職員派遣事業	<p>「さぽーとさっぽろ 家族でワクワク冬あそび」</p> <p>さぽーとさっぽろからの受託事業。コロナ禍における感染症対策を講じた事業として提案を行い受託した。各テントを家族だけで自由に使えるホームベースにして企画したことで、テントを起点に安心してくつろぎながら、家族で相談して次の行動を決めて出かけていく、ファミリー事業ならではの展開を作ることができた。満足度が非常に高く機会の増加を求める声が寄せられた。</p>	2/6、7 滝野自然学園 36人

滝野自然学園利用状況(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人 数	0	0	5	255	234	349	531	47	110	221	278	168	2,198
団体数	0	0	1	9	10	10	9	2	4	7	11	5	68

前年度比 延べ人数: 35.0% (前年度人数6,282人)

団体数: 71.6% (前年度団体数95団体)

(5) 野外活動課【指定管理事業：北方自然教育園】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
地域活動等事業	<p>「体験農場」</p> <p>新型コロナウィルス感染症拡大防止のため小中学校の畑や水田の植付授業が中止となつたため、北方自然教育園のスタッフにより植付を行い、収穫体験ができる機会を提供した。また、出前授業として希望校には足踏み脱穀や精米機、昔ながらの瓶を使った精米体験を実施した。その他に、ホームページでは植付、収穫、精米までの一連の流れがわかる動画を公開し、稲作の補助教材として使用できる取り組みを実施した。</p>	6月～11月 北方自然教育園 26校 881人(延べ)
	<p>自然環境関連フォーラム オンラインセミナー「里山でくらすハチ」</p> <p>自然と人との暮らしをつなぐ「里山」をテーマに、里山で暮らすハチの仲間について講師を迎える、親子を対象にWeb会議サービス「Zoom」を使用して、オンラインセミナーを実施した。オンラインでの講座は初めての試みであったが参加者からは積極的な質問などもあり、コロナ禍で自宅にいながらにして、気軽に参加できる新たな事業形態を実施する機会となった。</p>	2/23 オンラインでの実施 9人
施設運営事業	<p>「教育機関支援事業」</p> <p>みなみの杜高等支援学校と連携し、生産部門地域学習カリキュラムの一環としてナシの収穫体験を実施した。体験を通じて残果処理による病害虫の発生防止や野生動物対策について学ぶ機会を提供した。体験時には職員はマスクを着用し、説明時には距離を置くなど、新型コロナウィルス対策を講じながら実施した。</p>	10/29 北方自然教育園 15人

札幌市北方自然教育園利用状況

月	施設利用						体験農場		自然体験学習会		自然ふれあい事業		その他事業等(ボランティア等)		事業		合計			
	学校・園		一般		小計		小計													
	校数	人数	団体	個人	人數計	団体	人数	校数	人数	組数	人数	組数	人数	組数	人数	組数	人数	組数(団体)	人数	
合計	19	540	18	339	2,237	2,576	37	3,116	26	881	27	98	13	40	6	305	46	443	109	4,440
																		人數 43.0% (前年度人數10,324人) 組數 34.3% (前年度組數 318)		



(6) 野外活動課【指定管理事業：定山渓自然の村】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業	「定山渓スノーシューツアー」 ウインターアクティビティの提供として、スノーシューを履いて森歩きを行うツアーを行った。当初は15組定員の集合型事業の予定であったが、1日1組限定のプライベートツアー形式で事業を実施し、参加者のニーズに合わせた体験を提供することができた。	1月～3月(全5回) 定山渓自然の村 12人(延べ)
	「森の探検隊」 定山渓遊々の森において、親子向けの森林環境教育プログラムの提供をおこなった。参加者それぞれが森を歩きながら観察や散策を行い、季節によって変わる森の姿を楽しんでいた。当初は1日程につき定員10組での実施予定であったが、新型コロナウィルス感染症拡大防止対策のため、1回は中止、またその他の回については定員を3組に制限し実施した。	4月～2月(全3回) 定山渓自然の村 27人(延べ)
	「定山渓森のようちえん」 宿泊型キャンプを取り入れた幼児親子向けの活動を実施した。「自分のペースでとことんあそぶ」をテーマに、雪あそびやたき火体験などを行った。また、市民参画課環境プラザとの連携プログラムとして、動物の足跡スタンプづくりを行った。	2/14、2/15 定山渓自然の村 10人

札幌市定山渓自然の村利用状況

〈利用件数〉

区分	令和2年度	令和元年度	前年度比
コテージ	1,617	2,770	58.4%
テントハウス	1,195	1,247	95.8%
テントサイト	2,883	3,384	85.2%
合計	5,695	7,401	76.9%



〈利用人数〉

区分	令和2年度	令和元年度	前年度比
コテージ	5,645	10,344	54.6%
テントハウス	4,157	5,197	80.0%
テントサイト	4,523	7,407	61.1%
見学者	198	384	51.6%
合計	14,523	23,332	62.2%



(7) 野外活動課【指定管理事業：青少年山の家】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
指導者養成事業	「ボランティアミーティング」 登録ボランティアと協働して、新ハイキングコースの開拓、利用団体向けプログラムの開発、滝野のいきもの図鑑の作成を行った。	11月～2月(全10回) 北方自然教育園 青少年山の家 25人
生涯学習事業	「親子で札幌の山に登ろう！」 こども事業課と連携事業。親子での運動機会の増加を図り、健康、体力の育成の大切さを実感するとともに、札幌の山・自然・動植物を知り、郷土愛を育てることを目的に実施。ネイチャーゲームを織り交ぜながら、晩秋の藻岩山を登頂した。	11/7 藻岩山 41人
	「たきの森フェス～2021WINTER～」 園内の風倒木を活用した防災プログラム「薪づくり体験」を実施した。当日は森フェス開催以来2番目の来園者となり、多くの参加者が丸太を切る・割る作業を体験した。未就学児から保護者世代まで幅広い年齢層での参加が見られ、今後のプログラム展開への知見蓄積となった。	2/21 滝野すずらん丘陵公園 574人
自主事業	「たきの森のがっこうへの講師派遣」 企画事業課事業「たきの森のがっこう～山の生き物を知ろう～いのちをまなぼう～」内でヒグマトランクキットプログラムを実施した。活動の前半はスライドを活用したクイズを行い、後半にはヒグマの毛皮や頭骨、糞のレプリカなどの資料と触れ合う活動を行った。	12/12 滝野自然学園 24人
	「恵庭市立松恵小学校への講師派遣」 総合的学習の時間の中で、SDGs（持続可能な開発目標）に係る授業の依頼を受け、5・6時間目の2コマで実施した。1コマ目は、MDGs（ミレニアム開発目標）や国連で実施された持続可能な開発サミット、パリ協定などを踏まえたSDGsの成り立ちや、17の目標の概要について説明を行い、2コマ目はカードゲームを用いて、SDGsがある世界を体感した。	3/4 恵庭市立松恵小学校 38人



札幌市青少年山の家利用状況

項目		団体数	実利用者数	延利用者数
学校	幼稚園等 (4歳以上)	2	47	90
	小学校	236	9,724	16,130
	中学校	5	109	213
	高校	0	0	0
	盲聾養護学校	0	0	0
	専門学校	0	0	0
	大学	0	0	0
	その他の学校	0	0	0
青少年団体	少年団体	7	364	590
	青年団体	2	26	67
指導者団体	学校教育関係	0	0	0
	社会教育関係	0	0	0
親子		0	0	0
官公庁		0	0	0
その他		1	22	43
主催事業		11	599	599
計		264	10,891	17,732

団体数 (前年度 634 件、前年度比 41.6%)

実利用者数 (前年度 37,438 人、前年度比 29.1%)

延利用者数 (前年度 59,601 人、前年度比 29.8%)



(8) 市民参画課【指定管理事業：札幌エルプラザ公共4施設】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
【男女共同参画センター】 ワーク・ライフ 支援事業	<p>「女性リーダー養成研修」</p> <p>企業や組織で働く女性を対象とし、スキルアップとモチベーションアップを目的に実施した。</p> <p>①開講講演「女性リーダーの必要性について」 【講師】キャシー松井氏（ゴールドマン・サックス証券会社 副会長）</p> <p>②第2回「自分の強みを認識する～ストレングスファインダー」 【講師】長尾 彰氏（株ナガオ考務店 代表取締役）</p> <p>③第3回「自分らしいWillを描く～中長期でキャリア&ライフビジョンを描く」 【講師】小安 美和氏（株Will Lab 代表取締役）</p> <p>④第4回「問題解決思考を習慣化する」 【講師】鈴木 富貴氏（㈱チェンジウェーブ チェンジングプロデューサー）</p> <p>⑤成果発表・修了証授与式</p>	①10/27 ②11/25 ③12/18 ④1/22 ⑤2/16 ①札幌エルプラザ ②③④オンライン開催 ⑤ホテルオークラ札幌 176人(延べ)
【市民活動サポートセンター】 「NPOとの出会い」 創出事業	<p>「しみさぼフォーラム」</p> <p>計画当初は「マチなか×NPO」として、実行委員会形式で不特定多数が集合する中での市民活動団体の成果発表の場としていたが、オンラインイベント（YouTube配信）に変更し、「まちづくりの登場人物を増やすには」をテーマにゲストスピーカーたちによる様々な事例を基にフォーラムを展開した。</p>	2/27日 YouTube配信 40人(当日)
【環境プラザ】 相談事業	<p>「ミニ講座 森暮らしのいろは～フープの森のライフスタイル～」</p> <p>森に関心のある層に向けて、森での暮らしや資源活用を行っている方の講演を行い、疑問解決や情報収集、森での活動のきっかけとなる機会を提供した。森林を身近に感じ、環境保全に意識を向けてもらうことを目的に実施した。</p>	11/27 Zoom配信 13人
【環境プラザ】 講座・研修・交流会	<p>「児童対象事業 動物たちのミカタ」</p> <p>動物の生態や気にして見ると面白い行動、動物たちを取り巻く環境問題について講師を招き、講話を行った。</p> <p>参加者にエゾシカの足型を粘土にスタンプし持ち帰ってもらうことで生物多様性や環境保全について関心をもつ一助となることができた。</p>	1/17日 札幌市円山動物園 9人
【情報センター】 情報コンシェルジュ 事業	<p>「情報発信の学校」</p> <p>市民活動団体や企業での情報発信に課題を抱えている方を対象に、有効な情報発信のために必要な考え方や、方法論を学ぶことを目的に実施した。参加者からは、自団体の強みや事業のビジョンを整理し、本質を明確にするワークに対し、高評価の声が集まった。</p> <p>【講師】岡山 史興氏（㈱70seeds 代表）</p>	2月～3月 オンラインでの実施 83人(延べ)

	男女共同参画センター	消費者センター※	市民活動サポートセンター	環境プラザ	公共4施設計	情報センター	令和2年度総利用者数
施設利用	135,455	11,009	34,250	11,699	192,413	-	-
相談事業	666	9,888	678	38	11,270	-	-
観察・見学	9	0	4	87	100	-	-
展示コーナー	-	-	-	15,200	15,200	-	-
総合学習	-	-	-	119	119	-	-
施設外事業	1,230	-	503	5,160	6,893	-	-
計	137,360	20,897	35,435	32,303	225,995	46,569	272,564

※消費者センター施設利用、相談事業件数に関しては消費者協会分を含む

【令和元年度】

- ※施設利用 … 420,629人（前年度比 45.7%）
- ※相談事業 … 13,697人（前年度比 82.3%）
- ※観察・見学 … 1,753人（前年度比 5.7%）
- ※展示コーナー … 35,921人（前年度比 42.3%）
- ※総合学習 … 1,107人（前年度比 10.7%）
- ※施設外学習 … 18,165人（前年度比 37.9%）
- ※総利用者 … 573,218人（前年度比 47.5%）



(9) 企画事業課【地域活動等事業：自主事業・受託事業】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
受託事業	<p>「西区魅力創出プロジェクト運営業務」</p> <p>西区役所からの受託事業。西区にある食産業やモノづくりの魅力を発信する事業として、児童会館での見学会等を予定していたが、新型コロナの感染拡大に伴い縮小し実施した。2/22 の札幌市立発寒小学校での給食に使われる寿みそ(日本清酒株式会社)についてのニュースレターを作成、配布を行った。</p>	配布日 2/22 配布先 札幌市立発寒小学校 参加人数 なし
	<p>「オンラインさっぽろ雪まつり大倉山ジャンプ競技場雪像制作等業務」</p> <p>さっぽろ雪まつり実行委員会より受託した事業。これまでさっぽろ雪まつりの大雪像制作で培った技術を活かし、大倉山ジャンプ競技場を会場として、リモート観覧を前提とした雪像制作を行った。</p>	制作期間 1/19～28 解体 2/14 大倉山スキージャンプ場 参加人数 実測無し
企画提案事業	<p>「次世代の活動の担い手育成事業(中学生部門)」</p> <p>市民文化局市民自治推進課からの公募(プロポーザル形式)による受託事業。小学生から中学生、高校生、若者という世代別での取組みを実施。事業「東区 de まちしるべオンライン」を実施。東区4館の中学生と大学生と一緒に「まちづくり」についてのオンラインワークショップを行った。</p>	2/20 東苗穂児童会館 東雁来児童会館 元町児童会館 ひのまる児童会館 13人
	<p>「次世代の活動の担い手育成事業(大学生・若者部門)」</p> <p>市民文化局市民自治推進課からの公募(プロポーザル形式)による受託事業。小学生から中学生、高校生、若者という世代別での取組みを実施。大学生を中心とした若者実行委員会を9月から立上げ、「まちフェス」(11月実施)、「超まちフェス」(2月実施)というイベントの企画運営を行った。「超まちフェス」は次世代事業の集大成としての位置づけで、各部門の活動報告の場も行った。</p>	• まちフェス 11/29 動画放映での実施開催 チカホ北2条交差点広場 • 超まちフェス 2/28 チカホ北3条広場 400人



(10)その地 地域活動等事業等（こども育成事業、財団連携事業）

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
青少年活動 支援事業	<p>「札幌まなびのサポート事業『遊學舎 まなべえ』」</p> <p>生活困窮世帯の中学生に対して、学習習慣の獲得と自尊感情や自己肯定感が持てる居場所提供を目的として通年実施。また、若者部門と連携のうえ、大学生ボランティアの育成を目的とした通年講座も実施した。</p>	通年(1,400回) 児童会館他 40 会場 登録中学生 456 名 登録大学生 217 名
	<p>「子どもの暮らし支援コーディネート事業」</p> <p>困難を抱えている子どもや世帯を早期に発見し、必要な支援につなげるコーディネーター(5名)を配置。子どもの居場所や支援者を巡回するなかで、多くのケースを各種関係機関と連携のうえ対応、必要な支援に繋げることができている。</p>	通年 繼続支援ケース 606 件

6. 重要な契約に関する事業

(1) 地域活動等事業

(千円)

契 約 の 概 要 (業務名)	相 手 方	契約金額
札幌まなびのサポート事業	札幌市長	46,498
地域若者サポートステーション事業	北海道労働局総務部長	39,040
子どもの暮らし支援コーディネート事業	札幌市長	22,330

(2) 指定管理事業

(千円)

契 約 の 概 要 (業務名)	相 手 方	契約金額
札幌市児童会館及び札幌市こども人形劇場管理業務	札幌市長	3,724,585
札幌エルプラザ公共4施設管理業務	札幌市長	250,763
札幌市若者支援施設管理業務	札幌市長	175,264
札幌市青少年山の家管理業務	札幌市教育委員会教育長	128,635
札幌市定山渓自然の村管理業務	札幌市教育委員会教育長	75,834
札幌市こどもの劇場やまびこ座管理業務	札幌市長	46,053
札幌市北方自然教育園管理業務	札幌市教育委員会教育長	30,342
札幌市栄西小はんのき児童会館管理業務	札幌市長	31,984
札幌市羊丘児童会館管理業務	札幌市長	31,984

(3) 受託事業

(千円)

契 約 の 概 要 (業務名)	相 手 方	契約金額
札幌市ミニ児童会館管理運営業務	札幌市長	2,032,445
白石区複合庁舎まちづくりイベント広場 管理運営企画調整業務	札幌市長	4,224

7. 基金事業 協力者・助成対象一覧

(1) こども基金「さっぽろスマイルキッズ」助成事業 協力者一覧

寄付金総額 347, 660 円 全 17 件

【法人】 2 件

(円)

寄 付 者 氏 名	寄付額
株式会社館野オフィスサービス	50,000
北海道コカ・コーラボトリング株式会社	7,660
合 計	57,660

【団体】 4 件

(円)

寄 付 者 氏 名	寄付額
新琴似西連合町内会	60,000
ライオンズマンション24軒第3	40,000
やまびこ座 読み語りの会	10,000
人形劇団 ばびぶ	10,000
合 計	120,000

【個人】 11 件

(円)

寄 付 者 氏 名	寄付額
個人寄付者	170,000
合 計	170,000

※助成事業は中止とした。

(2) こども若者応援基金「さっぽろユースチャレンジ」事業 協力者一覧

寄付金総額 50,126,000円 全8件

【法人】 2件 (円)

寄付者氏名	寄付額
天理教藤北分教会	10,000
匿名希望	15,000
合計	25,000

【団体】 1件 (円)

寄付者氏名	寄付額
匿名希望	20,000
合計	20,000

【個人】 5件 (円)

寄付者氏名	寄付額
廣瀬 和美	10,000
個人寄付者	50,071,000
合計	50,081,000

子ども・若者の居場所「いとこんち」事業の様子

札幌市立中島中学校区内にある民泊施設を活用し、おおむね13歳から19歳の子ども・若者を対象に、週3日程度、勉強や食事、料理、入浴等の日常生活を送り、社会的自立を目指す家庭生活体験の場を提供した。



●令和2年度利用実績(令和2年6月～令和3年3月)

開所日数	利用実数	本人	家族	支援者	来室者計
128日	33名	延べ320名	延べ52名	延べ185名	延べ557名

●利用者の状況

小学生未満	小学生	中学生	15～19歳	20代	30代
5名	3名	11名	11名	1名	2名

●実施したイベント

中学生の夏休み給食・冬休み給食 ひとり親向けカフェ・食堂 ノースサファリ遠足
 青少年科学館遠足 スポーツ交流会 クリスマスパーティー 豆まき 卒業パーティー
 誕生日会 他

IV. 事務報告

1. 設立年月日 : 昭和 55 年 4 月 1 日

2. 定款に定める目的

この法人は、人とのつながりを通じて青少年の健全育成と青少年女性の社会参加を促進し、魅力あふれる地域社会創造のための主体的な活動を支援することにより、地域社会の発展及び向上を図り、もって豊かな生活の実現に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 青少年の健全育成と社会参加に関する事業
- (2) 社会教育の推進に関する事業
- (3) 市民活動の振興に関する事業
- (4) その他法人の目的を達成するために必要な事業

4. 事務所の状況

主たる事務所 : 札幌市西区宮の沢 1 条 1 丁目 1 番 10 号

従たる事務所 : 札幌市北区新琴似 8 条 1 丁目 1 番 34 号 2 階

5. 役員等に関する事項

(1) 理事

理 事 長	野 崎 清 史	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 理事長
専務理事	今 川 道 夫	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 専務理事
理 事	相 馬 宏 哉	NPO 法人ネイチャープログラムデザイン 理事長
理 事	菊 地 秀 一	(一社)札幌市私立保育園連盟 会長
理 事	藪 淳 一	(一社)札幌市私立幼稚園連合会 会長

(2) 監事

監 事	西 田 史 明	札幌商工会議所 理事
監 事	梅 津 太	税理士

[令和 3 年 3 月 31 日現在 計 7 人]

令和2年度における理事会は、次のとおり4回開催した。

開催年月日	議事事項	会議の結果
令和2年 6月5日	【第29回理事会】 1 「令和元年度事業報告及び附属明細書の承認」の件 2 「令和元年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認」の件 3 「定時評議員会の日時並びに目的である事項」の件	1 可決 2 可決 3 可決
令和2年 6月22日	【第30回理事会】 1 「理事長及び専務理事の選定」の件 2 「役員の報酬月額等の決定」の件	1 可決 2 可決
令和2年 11月6日	【第31回理事会】 1 「職務執行状況報告」の件 2 「その他報告」の件 3 「令和2年度事業計画書の変更」の件 4 「令和2年度予算の変更」の件	1 報告 2 報告 3 可決 4 可決
令和3年 3月3日	【第32回理事会】 1 「職務執行状況報告」の件 2 「その他報告」の件 3 「令和2年度予算の変更」の件 4 「令和3年度事業計画書及び收支予算書等の承認」の件	1 報告 2 報告 3 可決 4 可決

(3) 評議員

評議員	荒山睦子	札幌市PTA協議会 元副会長
評議員	梶井祥子	札幌大谷大学 教授
評議員	加藤喜久子	北海道情報大学 名誉教授
評議員	菊池恒	札幌市商店街振興組合連合会 理事相談役
評議員	柴田千尋	(公財)北海道青少年育成協会 専務理事
評議員	西田充潔	北星学園大学 教授
評議員	秦直樹	社会福祉法人常德会 常務理事
評議員	林美枝子	日本医療大学 教授
評議員	箭原恭子	(公社)札幌市母子寡婦福祉連合会 理事長

[令和3年3月31日現在 計9人]

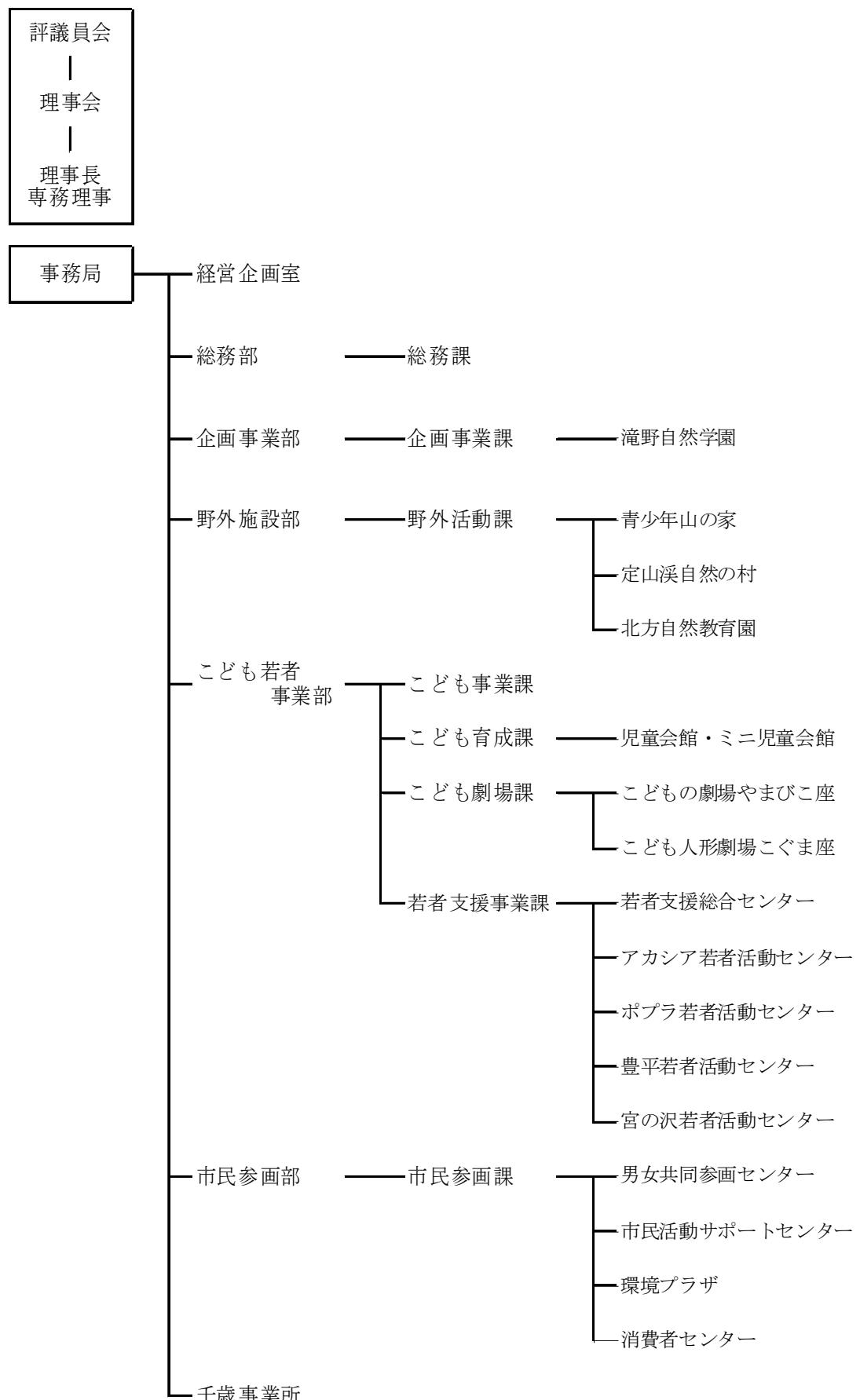
令和2年度における評議員会は、次のとおり1回開催した。

開催年月日	議事事項	会議の結果
令和2年 6月22日	【第9回評議員会】 1 「令和元年度事業報告及び附属明細書」の件 2 「令和元年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録等の承認」の件 3 「理事の選任」の件 4 「監事の選任」の件 5 「評議員の選任」の件	1 報告 2 可決 3 可決 4 可決 5 可決

6. 職員に関する事項（令和2年度末現在）

令和3年3月31日現在における事務局組織は次のとおりである。

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会 機構図



(1) 主要な職員

役職名	氏名	採用年月日	担当職務
事務局長	生出 裕一	平成元年6月19日	財団運営業務の総括
経営企画室長	佐々木 勝敏	平成12年4月1日	経営企画室業務の総括
企画事業部長	石井 一彦	昭和63年4月1日	企画事業課業務の総括
野外施設部長	岡本 峰子	昭和61年4月1日	野外活動課業務の総括
こども若者事業部長	五十嵐 健二	平成元年4月1日	こども若者事業部業務の総括
こども育成担当部長	井崎 光男	昭和59年9月9日	こども育成課業務の総括
こども育成担当部長	会田 彰仁	平成4年2月1日	こども育成課業務の総括
市民参画部長	下川原 清貴	昭和63年12月14日	市民参画課業務の総括
総務課長	土井 聖子	平成12年4月1日	総務・財務・経理等の総括
人事担当課長	高橋 雅裕	平成8年5月1日	人事・労務等の総括
野外活動課長	大場 瞳彦	昭和62年4月1日	青少年山の家の総括
定山渓自然の村担当課長	志賀 和行	昭和63年2月1日	定山渓自然の村の総括
こども事業課長	加藤 孝	平成12年4月1日	こども事業課業務の総括
管理担当課長	佐々木 初美	平成15年4月1日	児童会館管理に関する総括
こども育成課長	山田 憲克	平成10年4月1日	育成課調整に関する総括
児童会館担当課長	野坂 真英	平成11年1月1日	児童会館(厚別・清田・白石担当)
児童会館担当課長	蓮井 潤子	平成4年4月1日	児童会館(中央・南・手稲担当)
児童会館担当課長	長谷川 美千代	平成11年6月1日	児童会館(東・豊平担当)
児童会館担当課長	高坂 美江	平成12年4月1日	児童会館(北・西担当)
こども劇場課長	矢吹 英孝	平成3年4月1日	こども劇場課業務の総括
若者支援事業課長	松田 考	平成13年1月1日	若者支援事業課業務の総括
市民参画課長	山田 弓人	平成8年12月1日	エルプラザ公共4施設業務の総括
市民活動担当課長	斎藤 美季	平成5年6月1日	市民活動に関する調整
千歳事業所課長	森口 雅和	平成11年10月1日	千歳事業所の総括

(2) 職員数

主任指導員	193人	主任パートスタッフ	224人
指導員	513人	サポートスタッフ	29人
児童指導員	46人	再任用職員	21人
専門指導員	36人	臨時職員	75人
職場限定職員	18人	パートタイム職員	
合計		2,137人	
内常勤職員数	1,059人	内非常勤職員数	1,078人

7. 会計に関する事項

公認会計士の関与の有無

監査契約締結(「独立監査人の監査報告書」:令和3年6月1日)



公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会